

## 第 42 期第 9 回理事会議事録

日 時：2023 年 6 月 2 日（水） 13 時 00 分～17 時 00 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳暁典，荒川知子，池上雅明，稲津將，植田宏昭，齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，堀之内武，三好建正，渡部雅浩，以上 18 名（理事数現在 20 名）

欠席理事：榎本剛，坪木和久

出席監事：鈴木靖，吉田聡

その他の出席者靖：勝山税，齋藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

### 議 題

#### 1. 協議事項

##### 1) 会員の新規加入等について

新入会員 85，退会 33 を全会一致で承認した。2023 年 5 月 30 日現在，会員数 3,400 名で個人会員は 3,207 名。

##### 2) 第 42 期第 8 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

##### 3) 2023 年度総会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

#### 2. 報告事項

##### 1) WG からの報告

「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。  
・総会で WG の検討について説明を行った。

##### 2) 業務執行理事の報告

###### ① 庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・掲載許可

###### 1) 申請者：藤部文昭

転載元①：菅原広史，成田健一，三上岳彦，本條 毅，石井康一郎，2006：都市内緑地におけるクールアイランド強度の季節変化と気象条件への依存性。天気，53，393–404。

転載する図：第 7 図

転載元②：吉野正敏，1957：東京都区内における雨の分布と微雨日数の増加。天気特別号，日本気象学会創立 75 周年記念論文集，121–125。

転載する図：第 7 図

転載元③Kusaka, H., and F. Kimura, 2004: Coupling a single-layer urban canopy model with a simple atmospheric model: impact on urban heat island simulation for an idealized case. *J. Meteorol. Soc. Jpn.*, 82, 67–80. doi:10.2151/jmsj.82.67.

転載する図：Figs.4a, 4c, 6a, 6c

転載先：Fujibe, F.: Climatological study of urban climate and heat/cold mortalities in Japan.

発行者：Springer Nature

出版予定：2023 年 10 月

日本地理学会の英文叢書「International Perspectives in Geography」中の 1 冊

2) 申請者：川瀬宏昭

転載元①

掲載誌：Journal of Meteorological Society of Japan (2020 年) 第 98 巻, 835-857 ページ

著者：Hirockawa Y., Kato, T., Tsuguti H., Seino N.

タイトル：Identification and Classification of Heavy Rainfall Areas and their Characteristic Features in Japan

掲載図：図 6a. Distributions of the geographical appearance frequencies of HRAs (a–d) and their configurations (e) of HRAs.

転載元②

掲載誌：Journal of Meteorological Society of Japan (2020 年) 第 98 巻, 485–509 ページ.

著者：Kato T.

タイトル：Quasi-Stationary Band-Shaped Precipitation Systems, Named “Senjo-Kousuitai”, Causing Localized Heavy Rainfall in Japan

掲載図：図 4. Examples of senjo-kousuitai events for cases of (a) low pressure, (b) cold front, (c) indirect precipitation associated with typhoons, and (d) no disturbance.

転載先：Journal of Geophysical Research – Atmosphere (受理されれば)

・後援名義等使用依頼受付

1) 名称：日本機械学会 第 36 回計算力学講演会 (CMD2023)

主催：一般社団法人日本機械学会

期日：2023 年 10 月 25～17 日

会場：豊橋商工会議所

名義：協賛

2) 名称：日本機械学会 No.23-47 講習会「CFD の基礎とノウハウ」

主催：一般社団法人日本機械学会 流体工学部門

期日：2023年6月27日

会場：オンライン開催

名義：協賛

3) 名称：第41回レーザーセンシングシンポジウム

主催：レーザーセンシング学会

期日：2023年9月6～8日

場所：文部科学省研究交流センター（つくば市）

名義：協賛

4) 名称：第37回数値流体力学シンポジウム

主催：一般社団法人日本流体力学学会

期日：2023年12月15～17日

場所：名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館

名義：協賛

・寄附者リスト（2023.3.22～2023.6.1）

なし

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年3、4月分の収支及び現預金検査報告
- ・流動資金（運転資金）の月ごとの推移
- ・日本気象学会夏期特別セミナー補助金申請
- ・研究連絡会補助金申請 気象学史研究連絡会

理事から、研究を本務としない方の研究交流活動を奨励し支援していくべきとの意見があった。

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年度春季大会の実施結果

理事から、収容人数約1000名の安田講堂に現地参加者が約100名であったことは、ハイブリッド開催の影響である。中途半端で費用もかかるためどちらかにするべき。WGでの結論では春がオンライン、秋が対面の開催で、ハイブリッドは前提ではない。ハイブリッド開催予定の仙台大会の結果もきちんと評価すべきとの意見があった。

- ・2023年度秋季大会の準備状況

天気編集・・・以下の内容が報告された。

・ Vol. 70 No. 4, 5, 6, 7 (2023 年 4, 5, 6, 7 月) の掲載記事と, Vol. 70 No. 8, 9 (2023 年 8, 9 月) の予定記事.

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された.

・ Vol. 101 No. 3 (2023 年 6 月) の掲載論文と, Vol. 101 No. 4 (2023 年 8 月) の掲載予定論文. 審査中の論文リスト.

・ JMSJ/SOLA 科研費 (2022 年度) 申請結果について, 残念ながら不採択. 国際情報発信の評価が低かった.

・ JMSJ 編集方針の変更について. Note の廃止, 受理手続きの簡素化, 日本語要旨の廃止等を行う.

・ 気象集誌 (JMSJ) 特集号「豪雨豪雪と水蒸気輸送」投稿募集

・ Clarivate Journal Citation Reports データ購入について

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された.

・ 論文の投稿・公開状況

・ 2023 年 3~4 月の掲載論文: 5 編

表彰関連・・・以下の内容が報告された.

・ 藤原賞, 堀内賞, 小倉奨励賞の各候補者推薦委員会から 2023 年度の候補者について選定理由が報告され, その内容について議論が行われた. 山本賞については選定理由を次回理事会で議論する. 受賞者決定のため, 後日に理事による電子投票を行うこととした.

・ 松野賞, 2023 年春季大会受賞者 7 名

部外表彰・・・以下の内容が報告された.

・ 令和 5 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に学会推薦の中村尚氏が受賞.

・ 日本学術振興会賞, 今年度は 2 名推薦したが不採択. 両名とも推薦は来年度まで有効であるため来年度の審査に付される予定.

・ 日本学術振興会育志賞に 1 名の候補を推薦, 結果待ち.

・ 令和 5 年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者募集中 (2023 年 9 月 8 日締切).

・ 文部科学省より, 令和 6 年春の科学技術に関する褒章受賞候補者の推薦の案内あり, 検討の結果今年度は見送る.

・ 第 40 回井上学術賞受賞候補者募集中 (2023 年 9 月 20 日締切).

・ 令和 6 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰候補者募集中 (2023 年 7 月 20 日締切).

地球環境・・・以下の内容が報告された.

・ 教育と普及委員会と共同で 2023 年度春季大会「専門分科会」において「気候変動に関する教育・知識普及の現状と問題点」をテーマに議論をおこなった. 最大で 79 名の

参加があり、活発な議論があり普段気づかない視点が得られた。知見の普及のために教材の開発を進める。

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年度春季大会「専門分科会」で「激甚化・頻発化する気象災害の軽減に気象学と関連研究はどう貢献するか？」をテーマに今後の活動の展望などを議論した。招待講演3題を含め9講演、参加者最大で約180名余。
- ・6/28に委員会開催予定。夏、冬の天候の見通しや気象災害に関する取組について情報交換する。天気や教育普及委員会からも積極的にオブザーバ参加を頂く。
- ・「関東地震100年企画」事業として、第16回防災学術シンポジウム（2023年7月8日（土）日本学術会議講堂）と記念冊子発刊を予定。気象学会からは、関東大震災時の気象状況の再現に関する研究の成果を報告予定。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・ジュニアセッション終了（5/16～17 オンライン）18校21件
- ・夏期大学8月5日（土）6日（日）実施 オンライン テーマ：新しい気象学2023
- ・公開気象講演会11月19日（日）予定 オンライン テーマ：雪
- ・女子高生夏の学校 現地開催参加は見送り
- ・サイエンスカフェ 5月27日（土）に、台風発達のメカニズムをテーマにオンライン開催。台風2号発生時期と重なったため関心が高く100名以上の参加があった。オンラインが定着し、東京とつくばを分ける必要がなくなったので、今後名称を「東京」で統一する。

国際学術交流・・・以下の内容が報告された。

- ・国際学術研究集会出席補助金申請2件
- ・第3回小倉特別講義は仙台の秋季大会2日目午後に Bin Wang 博士にお願いする。

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。

- ・学生・院生の委員会加入について、理事会で検討を行った結果、実労働が発生しないように注意してオブザーバ的に参加頂く形とすることとなった。
- ・女子中高生夏の学校について、独立行政法人国立女性教育会館が主催から共催になり事務局が縮小したため今年度は不参加とする。
- ・JpGU2023「博士の生活をのぞいてみよう！」5月21日（日）に参加。
- ・「女性の集い」「ワークライフバランス（WLB）を考える会」合同セッションを5月17日（水）にオンライン開催。
- ・「WLBを考える会」報告書を会員限定 web site に公開。
- ・オブザーバ学会として参加している男女共同参画学協会連絡会では「任期付きの女性研究者の窮状を救うための施策」を要望する提言について7月頃に案が提示される予定。
- ・委員会補助金使途報告

4) 理事長報告

- ① 有識者会議の人選を進める.
- ② 日本学術会議「未来の学術振興構想」についての報告があった. 全体で 20 程度のグランドビジョンが策定される. 地球惑星科学分野では十数件の応募があったが概ね高評価であった. 9 月に公表の予定.
- ③ 文部科学省の学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ 2023）の策定に係る公募が 5 月 8 日に開始された. 6 月 30 日締切.
- ④ 学術会議会員選考について, 第三者委員会を設けて学術会議の独立性を担保できなくなる法案は見送りとなった. 今回気象学会も意思表示できたことは良かった.

5) その他

- ・コンサルタント委託業務委託状況

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2023 年 8 月 9 日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡